

令和2年度第3回大磯町総合計画審議会結果概要

○日時 令和2年11月2日（月）午後1時から午後3時40分まで

○場所 大磯町保健センター2階研修室

○出席者（会長）成田委員（学識経験者）

（委員）長嶋委員（教育委員会）、戸塚委員（農業委員会会長）、
西ヶ谷委員（区長連絡協議会会長）、小林委員（社会福祉協議会副会長）、
大倉委員（観光協会会長）、奥野委員（消防団団長）、
鈴木委員（PTA連絡協議会）、名久井委員（㈱湘南ジャーナル社）、
尾白委員（東海大学非常勤講師）、船瀬委員（公募町民）

○事務局 参事（政策担当）、政策課長、政策課担当職員

○議題（1）大磯町第五次総合計画前期基本計画（素案）について
（2）令和元年度総合戦略事業の評価検証について

○会議記録

1. あいさつ

（会長より次のとおりあいさつ）

1点目は、第五次総合計画前期基本計画の素案について、先ほど中崎町長より諮問を受けたので、次回の審議会での答申へ向けて、素案内容について委員の皆さんからの意見を取りまとめたい。

2点目は、人口ビジョン・総合戦略に基づく取組みについて、令和元年度の実施状況がまとまったとのことであり、評価の客観性を高めるための外部組織として、本審議会にて評価を行う。

委員の皆さんにおいては、忌憚のない意見等をお願いしたい。

2. 議題

（1）大磯町第五次総合計画前期基本計画（素案）について

資料1に基づき第五次総合計画前期基本計画（素案）について事務局から説明を行い、次のとおり意見提案及び質疑応答が行われた。

◎ 9月議会に諮り議決を得た部分はどこか。（委員）

○ 資料1-2の4～11ページの基本構想についてである。今回は12ページ以降の前期基本計画について御意見をいただければと考えている。（事務局）

- ◎ 資料1-2に素案の形で提供されている第五次前期基本計画の冊子についてであるが、町としては「町民に手に取ってもらえるようにしたい。」と説明があったが、少々無理があると考え。委員として内容を読んだがかなりの労力を要すると思う。町民が見て、町はどのようなことを実施して、どのような効果を狙ってどのように自分たちに利点があるのかが記載されていた方がよいと考える。(委員)
- ◎ 前回の会議でも話をしたと思うが、これは基本計画であり、具体的な計画については、基本計画の下部の実施計画や、それに基づき各担当で作成する個別の計画で示すと思われるので、基本計画については、政策の方向性や、どのような部分に力を入れるかという記載でよいと考える。確かに基本計画をそのまま町民の方に読んでもらうには少し重いとは感じる。(委員)
- ◎ 読むことが大変という点では同意見である。(委員)

- ◎ 資料1-2の21ページの「スマート産業」や23ページの「グローバル」等の単語について、内容が分かりにくいと感じる。誰にでも分かるような表現にすると、読みやすくなると感じる。十分に浸透していない単語は読む側に異なるイメージを持たせることもあるので注意が必要である。また、SDGsはどのようなものか。(委員)
- スマート産業は、今までの産業のままではなく、新たな販路の開拓や、ICTを活用し、さらに効率的な産業をめざすような取組みを進めていきたいと考えており、それらを示す単語として記載してある。グローバルという単語については、国際的なグローバルという単語と地域というローカルという単語を組み合わせた造語である。国際的な視点を持つ外国語教育と、町の地域の特性を生かした町の歴史教育等を合わせて進めていくことで町としての特色を出したいと考えている。これらの単語について、まだ、皆さんが同じように受け取れる単語ではないと考えている。言葉の使い方を変える、注釈をつける等計画書内でフォローできるようにしていく。SDGsについては、国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載のある2030年までに持続可能でよりよい世界をめざす国際目標である。(事務局)

- ◎ 本審議会としては、議決された基本構想の方向性と、今回示された前期基本計画との間に乖離が無いかを確認し、行政が実施する事業について、漏れがないか確認することであると考え。(会長)
- ◎ 一度確認したいが、今回は資料1-2について、どの程度の意見を出してよいか。中盤以降の「部門別計画」の部分まで意見を出すと際限が無くなると思う。(委

員)

- ◎ 今回は 25 ページの部門別計画の手前までの御意見をいただき、部門別計画についての意見や、その他気づいた点については、意見提出表に記載し、事務局に後日提出していただき、集約されたものを次回の答申の資料としたい。(会長)
- ◎ 一度自身が所属している組織に持ち帰り、内容の確認を行いたい。意見提出表の提出期限はいつか。(委員)
- 現在実施しているパブリックコメントの期限と同じく 12 月 1 日までに提出いただきたい。(事務局)

- ◎ 示された素案について、基本的にはよくできていると考えるが、もう少し簡略化できればよりよいと考える。あまり詳細まで記載せずに昨今の大きく変化する時勢に対応できるようになればよいと考える。(委員)
- ◎ 素案は確かに今までの計画より見やすくなっていると感じるが、21 ページの重点プロジェクト 1 の重点事業内の「地域産業基盤支援事業」の K P I に設定している「町内事業者数」について、昨今町内事業者数は減少の一途を辿っているが 5 年後の目標値が現在と同数なのはいかがなものかと考える。(委員)
- 目標値については、5 年後に町のあってほしい姿を示している。町内の経済活動の維持のため、この表記になっている。(事務局)
- ◎ K P I の設定について、どの部署が設定してどのように確認して素案に記載されているのか。重点事業と K P I とがフィットしていないように感じる。この目標を達成すればどうなるかというところが見えにくいと感じる。(委員)
- K P I については、担当課がより状況を認識していると考えており、担当課に確認を取りつつ、目標を定めている。目標を達成したからこうなる、という形ではなく、実施事業を進める中で、目標を達成し実現していこうという考えを持ち、設定をしている。ご指摘の通り 1 つの目標を達成したから、その事業全てよいというわけではないという認識を持ち進めている。掲げる目標は 1 つであるが、重点プロジェクトとなるので、大きな視野を持ち取り組んでいく。(事務局)

- ◎ 25 ページの地域モビリティ推進事業の概要について、漠然と記載がされており、ある程度具体的に記載する方が分かると考える。独居高齢者は出歩けず、買い物にも行けず家に籠ってしまう。独居高齢者の食料品や衣料品の買い物のための足としてよいと思うが、もう少し具体的に記載していただくとありがたいと考える。(委員)

- 高齢者含め日常生活に必要な買い物等をするために移動は必要である。町内にもバス等が通っていない地域もあり、町全体で移動できるようにしていくため、1つ目の実施事業を位置付けている。また、それでも移動が難しい方のために移動販売等の選択肢も考えていく必要があるとの考えから2つ目の実施事業を位置付けている。具体的にどの手法でどの地域かは決まっていないが、それらの取組みを広げていきたいという思いから記載している。地域によって状況が異なるため、具体の取組みが見えていない部分もあり、このような書き方になっている。概要の方向性を見据え、町に合った方向で具体的な事業を進めたいと考えている。
(事務局)

(2) 令和元年度総合戦略事業の評価検証について

資料2に基づき大磯町人口ビジョン・総合戦略の各戦略について事務局から説明を行い、次のとおり質疑応答、審議を行い、審議会評価を決定した。

戦略1

【質疑応答・審議】

- ◎ 今回は目標値はほとんど達成している事業が多いにも関わらず、担当課評価が「A（順調に推移。）」ではなく「B（一定の進捗がある。）」になっている。目標を達成しているなら「A」評価でよいのではないか。（委員）
- 今回の戦略1の評価については、全体の数値目標4つの内3つが目標を達成しているという状況にあるが、前年と比較すると数値は低下している。その状況の中で、令和元年度は天候不順に見舞われ、後半では新型コロナウイルス感染症の影響もあり、担当課としては、順風満帆な「A（順調に推移）」ではない「B（一定の進捗がある）」の評価がされたものと事務局では判断している。（事務局）
- ◎ 町には雨天時に過ごす施設がないため、天候の影響を受けやすい。努力のしようがない部分の扱いについて、評価Ⅳとしている委員がいるようであるがどのようにすれば評価に値するか伺いたい。（委員）
- ◎ 令和2年度の数値が出ていないので何とも言えないが、令和2年度はほとんどのイベントが延期、中止になっている。来年の評価シートに出てくる数字が重要である。要するに観光一辺倒であるところのような場合に影響を受けやすいという事を頭に入れておく必要があると考える。委員はこの評価シートに記載のある情報から評価をすればよいのではないか。（委員）
- ◎ 評価Ⅳとつけたが、明治記念大磯邸園が公開になることから、今後のさらなる

推進に期待するという意味を込めて評価をしたものである。(委員)

- ◎ 大磯宿場まつりの実行委員長や、いくつかボランティアや祭の実行委員長も務めてきたがかなり大変で、次の世代に祭を伝えていくという部分は大変難しい。このシートの内容のみではカバーしきれない部分があると思う。(委員)

【審議会評価】

- ◎ K P I は目標を超えている事業もあるが、今後の方向性について、事業を今の時勢に対応させていく必要があるという点から、評価を「Ⅱ（概ね重点事業が順調に進捗しているが、一部の事業を改善する必要がある。）」としてはどうか。(会長)

[一同異議なし]

- ◎ 戦略1の評価については、「Ⅱ」に決定する。(会長)

戦略2

【質疑応答・審議】

- ◎ K P I の数値については概ね達成していると感じる。コロナ禍の影響もあり、教育設備の導入は急速に進んでおり、記載はないが令和2年度において目標としている以上に教育環境がよくなっていると感じる。(委員)

- ◎ 待機児童数の現状と目標値の乖離が大きいけどどのような理由か。(会長)

- 町は待機児童数の削減に取り組んでおり、町立幼稚園の私立の認定こども園化などのいわゆる受け皿の拡充を図ってきた。ところが、現在、町の受け皿の拡充を上回るペースで保育を希望する方が増加していることが、待機児童数が減少しない要因となっている。今後も、町としては、第二期子ども笑顔かがやきプランを策定し、待機児童数の削減に向けた取組みとして、既存の園の保育定員の拡充や、さらなる町立幼稚園の認定こども園化を検討している。(事務局)

- ◎ それは実効性を期待してもよいものか。(会長)

- 子ども笑顔かがやきプランに基づき年度計画を定め実施しているので、実効性を持って進めている。(事務局)

【審議会評価】

- ◎ 実施事業としては概ね適切であるが、事業1、2のK P Iにおいて未達成の部分があり、事前に各委員からもらっている評価の多い「Ⅱ（概ね重点事業が順調に進捗しているが、一部の事業を改善する必要がある。）」としてはどうか。(会長)

[一同異議なし]

- ◎ 戦略2の評価については、「Ⅱ」に決定する。(会長)

戦略3

【質疑応答・審議】

- ◎ 事業2の新規就農者数の担当課評価理由にある農業アカデミーとの連携で新規の就農者数が増加したことについて、このような取組みは素晴らしいので、様々な機関と積極的に連携し、町を活性化していけばよいと考える。(委員)
- ◎ 新規就農者は認定農業者と比べると小規模であるので、従来から町内で農業を行っている認定農業者の数が減少すると、町全体の農業規模で見るとどうしても減少になってしまうが、新規就農者が増加することはよいことである。(委員)

【審議会評価】

- ◎ K P I が目標値を達成している事業もあるが、進捗が遅れている事業もあり、新規就農者数の伸びは評価できるという意見を付したうえで、評価を「Ⅲ（重点事業を実施したものの、十分な成果が得られておらず、一部の事業を見直す必要がある。）」としてはどうか。(会長)

[一同異議なし]

- ◎ 戦略3の評価については、「Ⅲ」に決定する。(会長)

戦略4

【質疑応答・審議】

- ◎ 事業1の担当課評価が低いが何か理由はあるか。(会長)
- 町民活動団体数と町民活動推進補助金申請数の2つをK P I としているが、平成30年と比べると後退している状況にあり、町としても目標達成のため取組みを進めているが、効果が表れておらず、担当課としての評価は「C（進捗は遅れている）」となっている。(事務局)
- ◎ 例えば大磯町ではこのような団体がこのような事を行っている、というような紹介を行えば団体数が増える可能性があると考えます。以前私が知っている団体で町内の団体にそれぞれの団体を紹介し合えるように、集会を行ったことがあったが、上手くいかなかった。(委員)
- ◎ 多世代による新たなコミュニティの創生のためには、互いの情報を得やすくする方策が必要であると考えます。(会長)

【審議会評価】

- ◎ K P I が一部を除き横ばいで停滞しており、重要と考えられる事業1についても現状の取組みとして成果が現れておらず事業を見直す必要があると判断し、評価を「Ⅲ（重点事業を実施したものの、十分な成果が得られておらず、一部の事業を見直す必要がある。）」としてはどうか。（会長）

[一同異議なし]

- ◎ 戦略4の評価については、「Ⅲ」に決定する。（会長）

3. その他

事務局から次回の総合計画審議会について事務連絡を行った。

以上